

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

基準Ⅱの自己点検・評価の概要

本学各学科の学位授与の方針は「(地域)社会において貢献できる能力」を柱に定められており、それぞれの学科において取得できる資格(専門的学習成果)と密接に関連している。それに対応する形で教育課程編成・実施の方針と入学者受け入れの方針が定められ、適切に運営されている。

学習成果は専門的学習成果と汎用的学習成果に分けられ、専門的学習成果については、幼児保育学科は幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得、ライフデザイン学科は学生の目標に関連する2種類以上の資格取得、看護学科は学生の看護師国家試験の合格状況によって評価される。また、専門的学習成果の獲得に至るまでの学習状況はGPAによって把握し、各学科ともそれに基づいて学生の指導を行っている。

一方、汎用的学習成果については、社会人基礎力および学士力(看護学科)の向上を目指し、各学科で実習指導、就職指導、行事等を通じて涵養を図っている。その必要性は卒業後評価の結果からも窺われる。汎用的学習成果の測定は難しいが、主に自己評価および実習やインターンシップの相手先による評価によって把握している。

学習成果の獲得に向けて、教員の教育力の向上を図り、公開授業、授業評価アンケート、FDワークショップ等のFD活動を行っている。また、教学Webシステムを用いた授業支援は徐々にだが拡大している。

学生の個別指導はゼミナール担任教員が窓口となって行っている。各教員が担当する学生の学習状況を把握するために、学科内では欠席状況、GPA、単位修得状況、資格取得状況、就職状況のデータを共有している。

物的環境としては、教室の備品やトイレ等の設備を少しずつ改善し、平成27年度は幼児保育学科講義・管理棟(短大1号館)の新築を行った。平成27年1月以降、新教室を用いて授業を行っている。また、重要な学習資源である図書館については、図書館職員のアイディアと努力によって利用者の大幅な増加が認められている。

入学者の多様化に伴い、リメディアル教育は大きな課題となっており、各学科において必要な内容を見定めて実施している。

学生の生活支援については、学生委員会と教務学生課の教職員が多くの時間を割いてさまざまなニーズに応え、充実した学生生活を送れるよう、きめ細かい支援を行っている。しかし、内容が多岐にわたるだけに課題も認められる。

進路支援については、なるべく多くの学生が各学科における学習成果を活かした就職・進学を果たすことが目標である。平成27年度は3学科とも100%の就職率を達成し、うち幼児保育学科では95.5%、看護学科では100%が専門職に従事している。

入学者の受け入れについては、入学者受け入れの方針に基づき、多様な入試を実施して資質を備えた学生の受け入れに努めている。入学後は学生生活に速やかに適応できるよう、オリエンテーションや宿泊研修による支援を行っている。

基準Ⅱ-A 教育課程

基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している。

(a) 現状

本学の学位授与の方針は、「カトリック精神に基づき、教養と判断力、豊かな人間性を身につけ、かつ、それぞれの専門的分野において社会的責任を果たし、地域社会に貢献できる人物」であり、これを受けた各学科の学位授与の方針は、「基準Ⅰの自己点検・評価の概要」（表Ⅰ-2）に示したとおりである。

各学科の学位授与の方針の中核は、幼児保育学科では「保育者として地域や保護者と連携する能力」、ライフデザイン学科では「社会に貢献できる行動や思考の能力」、看護学科では「現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力」であり、これらはそれぞれの学科において取得できる資格（専門的学習成果）に対応している。

学位授与の方針と学則との関連性としては、まず、八戸学院短期大学学則（以下「学則」という）第1条第1項に「カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を受け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道徳観と高い知性を有する民主主義的にして平和を愛好する人材を育成することを目的とする」と本学の教育目的が明記され、続く第2項、第3項、第4項には各学科の教育目的が記されている。これが学位授与の方針の根幹をなすものである。また、第14条には卒業要件として各学科の卒業に必要な単位数が記されており、看護学科についてはこれがそのまま看護師国家試験受験資格の要件となっている。幼児保育学科については資格を取得せずに卒業することも可能だが、第15条において、幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の取得要件が述べられている。（提出資料-1,7）

学位授与の方針は、学内外に広く表明されている。学内においては、学生に配布する「学修の手引き」に学位授与の方針、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件等が記載されており、年度初めのオリエンテーションや履修登録時には、それを用いて学位授与の方針等を説明している。学外に対しては学校案内、八戸学院短期大学ホームページ等を通じて学位授与の方針を明らかにしている。また、年に数回行われるオープンキャンパスにおいても学位授与の方針を説明し、学外へ開示している。（提出資料-2,8）

各学科の学位授与の方針は「（地域）社会への貢献」を柱に定められており、実際に卒業生の多くがそれに沿って、取得した資格を生かして就職している。したがって、本学の学位授与の方針は学習成果に基づいて制定されており、社会的な通用性が確保されている。（基準Ⅱ-A-4参照）

学位授与の方針は、平成23年度に制定され、平成24年度から適用されたものである。制定からの年数は短いですが、平成24年度に文言の点検を行っている。

(b) 課題

学位授与の方針については、年度初めの全体オリエンテーションで本学全体の方針を、学科ごとのオリエンテーションで各学科の方針を説明している。しかし、学生の認識度が低いため、さらに機会を設け、周知徹底を図る。学位授与の方針は今後も毎年点検を重ねる。

基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している。

(a) 現状

本学および各学科の教育課程編成・実施の方針は「表Ⅰ-2」に示したとおりであり、それぞれの学位授与の方針に対応して定められている。

本学の求める学習成果は、建学の精神に則り、学生がそれぞれの専門分野において地域社会に貢献できる人物へと成長することである。この学習成果に対応させて、授業科目を分かりやすい形で編成している。まず、各学科に教養教育科目（リベラルアーツ）を配置し、建学の精神を伝える「宗教学」の講義を必修科目としている。さらに、カトリック精神に基づく豊かな人間性を育むため、幼児保育学科では「音楽」、看護学科では「芸術と表現」を教養科目で学ぶことができる。その上で、幼児保育学科は幼稚園教諭二種免許状および保育士国家資格、看護学科は看護師国家試験受験資格に必要な科目を法令の定めるとおり配置し、実学教育に努めている。ライフデザイン学科では、現代社会のニーズに対応できる能力の育成を目指し、「食と観光」、「福祉と健康」、「ビジネススキル」の3つのコースをおき、さらに学生がコース選択をしやすいように、「食と観光コース」には「食プログラム」と「観光プログラム」、「福祉と健康コース」には「福祉プログラム」と「健康プログラム」、「ビジネススキルコース」には「ビジネスプログラム」と「ITプログラム」を配置している。（提出資料-1）

汎用的学習成果として、「礼儀」「態度」「コミュニケーション能力」等の社会人基礎力を高めるため、3学科とも学内の教員による教育指導の他に、外部講師による「マナー・コミュニケーション講座」等を実施している。これらは実習・インターンシップに向けての指導の一環として、各学科において年間計画の下に実施している。また、看護学科では学士力の向上を目指し、八戸学院大学人間健康学部と連携して「地域医療セミナー」を開催し、「輸血セミナー」「青森県腎臓バンクセミナー」等も外部講師を招いて開講した。平成27年度の宣誓式では、外部講師による「看護の可能性への挑戦」というテーマの特別記念講演を実施した。（備付資料-31）

教育の質は、学生の成績が学位授与の方針を満たすものであることを証明することで保証される。したがって、成績付与は教育の質の保証にとって重要な問題である。本学では、各学科とも成績は資格取得につながるため、その点を意識して成績を厳格に付与している。

成績の評価は平成26年度より、90点以上を「秀」、80点以上を「優」、70点以上を「良」、60点以上を「可」、60点未満を「不可」とした。個々の教員は、各講義の到達目標に応じて講義期間中に小テストやレポートなどの課題を実施し、学期末には定期試験を行う。それらを総合的に評価することにより、成績評価を行っている。

試験を厳正に実施するため、定期試験の前には毎回試験オリエンテーションを実施し、履修者が30名以上のすべての科目に複数の試験監督を配置している。しかし、平成27年度前期の定期試験において学生の不正行為が認められたため、不正行為の防止と対処について教務委員会で検討し、「八戸学院短期大学試験規定」の改定を行った。（備付資料-77）

成績評価を厳格に適用することにより、履修年次に単位を修得できない学生も出てくる。その場合、可能であれば次年度に再履修できるように、時間割を作成している。また、通常の修業年限で必要な単位を修得できなかった場合は、高学年生の規定や科目等履修生制度を利用して、資格取得に再挑戦できるよう支援している。逆に言えば、そうした形での支援体

制が整ったことが、成績の厳格な付与を担保しているのである。(提出資料-15、備付資料-77)

シラバスについては、各教員が統一フォーマットに基づいて、教学Webシステム上で入力を行い、教務委員が毎年それらを点検し、不備があれば訂正を依頼している。また、初回の授業では履修者に対して印刷したシラバスを配布して説明するよう求めている。

本学では通信教育課程は設置していないが、情報系科目を中心に、教学Webシステムを授業に取り入れて課題の提出や教材の提供、授業アンケートの実施を行う科目が徐々に増えてきている。

各学科の教育課程には、短期大学設置基準に定められた数以上の教員を配置しており、「八戸学院短期大学教員採用・昇任規程（諸規程集）」に則り、教員の資格・業績を基に教育課程に即した教員組織の整備を行っている。（基礎資料1. (7)参照）（備付資料-77）

幼児保育学科とライフデザイン学科は平成23年度に教育課程の改訂を行った。その後の大きな改訂はないが、ライフデザイン学科ではキャリア教育の推進のために、平成26年度より教養科目に「キャリアプランニング」を追加し、社会人基礎力や学習する力等の汎用的学習成果の向上を目指した。幼児保育学科では休学する学生が増えていることから、復学しやすい体制作りが必要との認識が広がった。そのため、平成27年度より、実習指導科目を除くすべての通年科目を半期ずつの2つの科目に分割した。また、「障害児保育」は2年次配当科目であったが、学生より、1年次の最後に行われる施設実習の前に受講したかったという意見が多く寄せられたことから、平成27年度より1年次配当科目に変更した。看護学科においては、1年次配当であった「薬理学」と「リハビリテーション看護論」を、専門的理解を深めるために2年次配当科目に変更した。このように、教育課程の見直しは随時行っている。

(b) 課題

シラバスについては、教務委員が毎年点検を実施しているが、非常勤講師や新任教員の科目については必要事項が記載されないなどの不備がまだ見受けられるため、今後も継続して点検し、改善を求めていく。

教育課程の見直しは社会情勢や短期大学のあり方を見据えて、今後も随時行う。幼児保育学科では選択科目を増やして学びの幅を広げること、学力に応じた少人数クラスでの授業を実現すること、音楽関係の科目を編成し直すことを目的として、教育課程の改訂を検討中である。また、ライフデザイン学科は入学定員を満たさない状況が続いていることから、教育課程を根本的に見直す時期に来ている。看護学科は平成28年度より八戸学院大学健康医療学部看護学科へと移行した。

汎用的学習成果の獲得は各学科共通の課題であり、教育課程の内外で、行事や実習指導を通じて成果を上げるべく努力しているが、今後も検証を重ね、さらに質の高い教育活動を提供する必要がある。

基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している。

(a) 現状

本学および各学科の入学者受け入れの方針は、学位授与の方針を基にしてどのような学生に入学して欲しいかを明らかにしたものであり、「基準Ⅰの自己点検・評価の概要」（表Ⅰ-2）に示した通りである。そこでは各分野の学修に意欲を持ち、地域に貢献する意欲を持った人材を求めており、これは各学科における学習成果に対応している。

入学者受け入れの方針は「入学者選抜試験要項」やホームページに記載し、高等学校教員を対象の大学説明会においても資料を配付し、説明している。各学科とも、入学者受け入れの方針に、入学前の学習成果についての具体的な評価を示していない。これは、そうすることで門戸を狭めるのではなく、基本的な資質と意欲を備えた学生を受け入れ、入学後に育てていくという方針の現れである。そのために、どの学科でも入学後のリメディアル教育に力を入れており、そのスタートとして入学前学習課題や、系列高校からの入学者を対象としたピアノレッスンの特別講座を実施している。平成28年度入試では、入学前課題の「国語」の作題担当者を「国語表現」の科目担当者に変更し、課題と入学後の授業を関連づけるように内容や量の見直しを行った。（基準Ⅱ-B-2参照）（提出資料-5, 8、備付資料-19, 20, 37）

入学者選抜の方法としては、推薦入学試験、社会人入学試験、一般入学試験、A0入学試験（ライフデザイン学科のみ実施）および大学入試センター試験成績利用入学試験を実施している。推薦入学試験においては学科ごとに推薦基準を設け、また、ライフデザイン学科と看護学科では指定校制度を導入している。さらに、入学者受け入れの方針をより明確に示した入学試験として、幼児保育学科は保育の専門教育を受けた入学志願者を対象に「専門課程入学試験」を、ライフデザイン学科は積極的に資格取得を目指す入学志願者を対象に「S特待生選抜入学試験」（高等学校在学中に取得した資格等が特待生条件に該当する場合、学費免除の特典を受けることができる）を実施している。（提出資料-4、備付資料-32）

入学者の選抜については、「八戸学院大学・八戸学院短期大学入学者選抜委員会（以下、「入学者選抜委員会」）」による合否判定会議において合否が審議され、学長によって決定される。「入学者選抜委員会」は、本学及び同法人の八戸学院大学の入学試験の合否判定に関する事項を審議する委員会であり、本学からは学長補佐、学科長など、学長が必要と認めた教授が出席し、入学者受け入れの方針に則って厳正に審議・選抜を行っている。（備付資料-77）

(b) 課題

入学試験では入学者受け入れの方針に則して学習状況の把握に努めているが、特にA0入学試験、推薦入学試験（Ⅰ期）、専門課程入学試験で早期に合格した学生において、入学前に学習意欲が低下することが懸念されている。学習意欲や学力の差は入学後の学習に大きな影響をもたらすことから、入学前課題や入学者を対象とした特別講座については今後も学科や教務委員会と連携し、内容や量についての検討を継続する。

基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である。

(a) 現状

本学の学位授与の方針は、どのような人材を育成するのか、また、その人材は何ができるのかを明確に示しており、各学科ともそれに基づいて教育課程の学習成果を具体的に示している。すなわち、幼児保育学科は幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得、ライフデザイン学科は学生の目標に関連する2種類以上の資格取得、看護学科は看護師国家試験の合格状況によって専門的学習成果を評価している。

平成27年度卒業生については、幼児保育学科では96.7%が幼稚園教諭二種免許状、同じく96.7%が保育士資格を取得し、95.5%の学生が資格を生かした就職をしている。ライフデザイン学科では全員が2種類以上の資格を取得することを目標にしており、86.7%がそれを果たした。平均取得資格数は3.57であった。看護学科では課題であった国家試験対策として、平成25年度より全学年を対象として「国家試験対策」の時間を設けた。平成27年度受験生の合格率は92.5%であった。その全員が看護師として就職している。（備付資料-13）

このように、各学科の学習成果は具体的な形で一定期間内に達成可能であり、実際的な価値を有するものである。定められた修業年限において資格取得ができなかった場合、幼児保育学科では科目等履修生として再挑戦する方法がある。平成27年度は1名の卒業生が科目等履修生となり、保育士資格を取得した。看護学科では専門科目がすべて卒業要件であるため、必要な単位を修得できなかった学生は高学年生として在籍し、挑戦を続けられるよう、支援の制度を整えている。（備付資料-77）

専門的学習成果の獲得に至るまでの学修状況の査定方法としては、GPAを導入している。幼児保育学科では数年前からGPAを実習要件として活用してきた。すなわち、学期ごとに全学生のGPAを算出し、一定の水準に達しない学生については学習環境の改善のためにすべての授業で最前列に着席させ、全教員が積極的に声を掛けて関わるようにしている。それでも成績の向上が認められない場合は、保護者を含めての面談を行い、進路変更を促すこともある。ライフデザイン学科、看護学科でも平成26年度よりGPAを導入し、27年度は学期ごとに学生の指導の材料として活用した。また、本学全体として、特待生の選考や学生表彰の基準としてGPAを用いている。（備付資料-12）

一方、資格取得という専門的学習成果と並んで重要なのが、汎用的学習成果である。各学科とも、真に社会貢献できる人材を育てるために、教育課程の内外で多様な教育活動を行っている。幼児保育学科では教育活動の一環として、実習指導と学科指導の年間指導計画を立てて実施している。この中には、年間を通して行われる実習指導、就職指導、音楽指導、国語力テスト（リメディアル国語教育）と、学科行事である砂浜彫刻、流し踊り、星の子音楽会、はちのへ子どもフェスタ、実習報告会、ゼミナール研究成果報告会等が組み込まれている。ライフデザイン学科では、インターンシップ、流し踊り、ボランティアデー、ゼミナール発表会などの演習指導を行っている。看護学科では、ゼミナール活動、就職指導、宣誓式および特別記念講演、地域医療セミナー、流し踊り、卒業研究発表会、地域における健康調査への協力などを教育活動として取り入れている。（備付資料-31）

これらの教育活動は学生の意欲・資質を向上させ、職業人としての資質を養い、学習成果を高めるものである。この活動の学習成果は、それぞれの専門分野におけるスキルに通じるため、実際的な価値を有するといえる。これらの教育活動については、担当者が参加状況を

把握し、アンケートや自己評価を用いて効果を測定し、学科内で成果を報告してPDCAサイクルで改善を図っている。

さらに、学習期間を通じて汎用的学習成果がどのように獲得されていくのかを把握するために、各学科で測定を行っている。幼児保育学科ではそのみを目的とした測定は行っていないが、「教職・保育実践演習」の履修に向けて入学時から学期ごとに自己評価を行っている。その平均値を見ると、「他者意見の受容」「他者との連携・協力」「社会人としての基本」「時事問題への関心」などすべての項目で毎回上昇を示している。また、他者評価としては実習評価がある。例えば、1年次の終わりに行われる第Ⅰ期保育所実習とその半年後に行われる第Ⅱ期保育所実習とで比較すると、社会人基礎力に関する「責任感」「意欲・積極性」「探究心」「協調性」「言葉遣い・態度・礼儀」の項目で、すべて上昇を示している（平成27年度卒業生）。ただし、「探究心」に関してはほとんど違いがなかった。実習評価が特に低い学生については、学内指導、ボランティア、再実習等の指導を行い、場合によっては実習の単位が修得できないこともある。（備付資料-14）

一方、ライフデザイン学科と看護学科では独自の測定を行っている。ライフデザイン学科では、汎用的学習成果の自己評価シートによる測定を前期と後期の終了時に実施した。前期、後期とも全体で達成度が上がり、学習成果の向上の認識が認められた。前期から後期に渡って達成度が特に増加している項目は、実行力(17%増)、計画力(15%増)、問題発見力(13%増)等である。傾聴力、柔軟性、規律性は前期・後期ともに安定した高い達成度を示した。微増の項目は主体性と想像力で、達成度が下がった項目はなく、学期が進むにつれて学習成果が向上しているという認識が認められた。看護学科では汎用的学習成果を「学士力」および「社会人基礎力」の評価表を用いて査定している。その結果、学年が進むにつれて得点が高くなっていることが分かった。（備付資料-14）

(b) 課題

各学科とも学習成果に具体性があるが、汎用的学習成果の測定方法についてはさらに検討を重ねる必要がある。ライフデザイン学科では、学生全員に汎用的学習成果の自己評価を各学期末に実施した。今後は、学年間の推移や変化を更に分析して活用する。看護学科では年1回の「学士力」、年2回の「社会人基礎力」測定を継続し、個人および学年の特徴を把握しながらその活用方法を検討する。また、こういった様々な学習成果を随時参照するために、個人カルテとして一覧できるようにする方法も検討していく。

GPAを用いた学習成果の把握は従来幼児保育学科のみで行ってきたが、平成26年度より3学科で実施し、平成27年度からは3学科とも前・後期のGPAを指導の参考にした。これは今後も継続して実施する。

看護学科における大きな課題は、専門的学習成果の獲得、すなわち看護師国家試験の合格である。国家試験対策については、学生の意欲や学習成果の向上のため、成果を検証し内容の改善を図ってきたが、平成27年度は合格率が低下した。不合格者の多くはGPAが低く、高学年生（留年・休学経験者）が半分以上を占める。今後、合格率を向上させるには、成績不良による留年を防ぎ、継続した個別指導が必須である。定められた在学期間で卒業要件を満たし、国家試験に合格することが学科の目標であり、それに向けての体制作りを検討・実施する。平成28年度は、2・3年生に対して早期の実力判定の機会を設け、その結果を基に能力別

に個別・グループ対応を実施する。また、専門科目の単位修得が国家試験対策に直結することを認識させ、日々の学びが結果に結びつく体験を早期から重ねるよう教員が一丸となって指導する。その際、学生が主体的に行動できるよう、学生と教員間での意見交換の場を多く取り入れて対応する。（備付資料-38）

基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。

(a) 現状

平成27年11月に、平成26年度卒業生の就職先である事業所124件にアンケートによる評価を依頼し、95事業所より回答を得た(回答率76.6%)。その結果、各事業所の業績に貢献しているかどうかについては、8割以上の事業所から貢献しているという評価が得られた。3学科共通の傾向として、「協調性」や「ルールの順守」についてはほぼ7割以上の事業所より「ある」という回答を得ているが、「専門的な知識・スキル」や「問題解決能力」に関しては、「どちらともいえない」や「(あると)あまり思わない」の回答が5割以上と比較的多かった。卒業生に望むことを複数回答可で聞いたところ、最も多かったのは幼児保育学科では「社会人としての礼儀」、ライフデザイン学科では「仕事に対する積極性」、看護学科では「知識・技術」であった。これは、本学卒業生が一般に業務に真面目に取り組み、職場の一員として貢献してはいるが、業務で発展的仕事を任せるには知識やスキルが不足しているという評価だと考えられる。ただし、自由記述で知識やスキルの不足を訴える内容は見られなかったため、これについては今後の職務の中で身につけることを期待されているものと考えられる。

(備付資料-16)

その他、直接卒業生の評価を聴取できる場として、幼児保育学科では「保育者養成懇談会」、ライフデザイン学科では八戸学院大学と共催の「合同企業研究会」、看護学科では「学内就職相談会」がある。また、幼児保育学科と看護学科では実習中の巡回指導時に、看護学科はさらに就職先への訪問を行って卒業生の評価を聴取している。(備付資料-33)

平成26年度卒業生199名を対象にした本学に対するアンケート調査では、71名から回答を得た(回答率35.7%)。学生時代に学んでおけば良かったことを自由記述で尋ねたところ、幼児保育学科では障害や障害児保育に関する知識、書く技術、保育活動の実践的な技術など、専門的な技術・知識に関する回答が多く見られた。ライフデザイン学科では言葉遣い、看護学科では看護の技術とコミュニケーション力を上げる回答が目立った。(備付資料-17)

前回の平成25年度の卒業生への評価で社会人としての基礎力の向上を求める声が多かったことから、幼児保育学科では国語力の向上を目的に、平成25年度より国語表現の授業と連携し、保育所保育指針・天声人語の漢字書き取りテストを授業内で実施している。その点検のために、平成27年度は実習・学科指導の時間に国語力テストを6回行った。なお、この時間には漢字テストだけでなく、書写や作文も行っている。ライフデザイン学科では「キャリアプランニング」や「就職指導」を活用して、授業とインターンシップを連携させて指導し、企業から講師を招いたワークショップなどを行って職業意識の喚起と向上を図った。また、NIE(授業への新聞活用)の継続によって、基礎学力と社会性の養成を強化した。看護学科では就職支援委員会が中心となり、マナー講座や卒業生からの講話を計画・実施し、社会人や看護師としての心構え・態度を学ぶ機会を設けた。自分自身の汎用的能力については、「学士力」「社会人基礎力」の評価表を用いて自己評価させ成長するための課題を意識する機会を設けた。平成27年度も就職後の新人教育システムに繋がる看護技術のスキルアップに向けて、卒業前技術演習を実施した。(提出資料-16、備付資料-31)

今回の卒業生への評価では、社会人基礎力の不足に関する指摘はあまり見られなかった。自由記述での回答のため、比較検討は難しいが、上記の活動が成果を上げつつあるものにとらえたい。ただし、卒業生自身の評価として、コミュニケーションに関する課題が比較的多

く見られることから、今後の学習や指導の中で、この点の強化をいっそう強化する必要があると思われる。

(b) 課題

卒業生の就職先および卒業生に対するアンケートを平成27年度に実施した（前回は平成25年度）。学習成果の点検に活用するためには、継続したアンケート調査を実施し、その結果を検証することが必要である。

幼児保育学科では保育者としての専門的基礎力と国語力向上の取り組みを継続し、成果を検証する必要がある。ライフデザイン学科では、キャリア支援に関連する授業で、基礎学力の強化と社会性の養成を継続して行う。看護学科では、看護基礎能力の向上をめざした取り組みを継続し、社会人・専門職になるための成長を支援していく。

基準Ⅱ-A 教育課程の改善計画

学位授与の方針について、学生の中には必ずしもしっかり認識していない学生が存在するため、オリエンテーション以外にも実習指導や就職指導の時間を用いて、丁寧に説明する機会を増やしたい。

シラバスについては、毎年点検してその結果をフィードバックしているが、依然として一部に必要事項の記載漏れや不適切な記載が見受けられるため、今後も継続して点検し、改善を求めていく。

教育課程の見直しは社会情勢や短期大学のあり方を見据えて、今後も随時行う。幼児保育学科の教育課程については、専門学校との差別化を追求する必要がある。ライフデザイン学科については、多様なコース・プログラムを用意しているが、入学者の数を考えると非効率な現状であることは否めない。この点については今後、根本的な検討が必要である。

汎用的学習成果の獲得のために、教育課程の内外で成果を上げるべく努力を重ねているが、特に実習指導、就職指導を通じて今後も検証を重ね、さらに質の高い教育活動を提供する。

入学者受け入れについては、AO 入学試験、一般入学試験Ⅰ期、社会人入学試験で早期に合格した学生の学習意欲の低下の対策として、合格者に入学前学習課題や特別講座などを実施し、入学後の学習につなぐとともに意欲の向上につとめている。今後は入学前課題と入学後のリメディアル教育を一体にした検討を行う。

入学者選抜においては、より意欲をもった学生を獲得するために、推薦基準や指定校制度などの見直しを継続して行う。

汎用的学習成果については、各学科において測定を丁寧に行っているが、今後も適切な方法を模索し、継続して実施する。

GPAを用いた学習成果の把握は平成27年度より全学科で前・後期とも実施し、それを用いた学生の指導を行っている。

看護学科では、専門的学習成果の獲得、すなわち看護師国家試験の合格率を上げるため、学生の意欲や学習成果の向上を目指して、成果を検証し内容の改善を図る。特に、高学年生は基礎学力の低い学生が多く、合格率が低いため、個別支援を継続していく。また、定められた在学期間で卒業要件を満たし、国家試験に合格することが学科の目標であり、それに向けての体制作り学科全体で取り組む。

平成27年11月に実施した卒業生アンケートの結果、前回のアンケート後に強化した社会人基礎力に関する指導が成果をあげつつあることがうかがわれた。今後は卒業生が求める知識や技術の習得を教育課程の中で果たすために、教育課程の見直しを行うとともに、コミュニケーション力等の社会人基礎力の強化についても、さらに取り組みを推進していく。

【基準Ⅱ-Aの提出資料】

- 提出資料- 1 学修の手引き [平成 27 年度]
- 提出資料- 2 学校案内「未来をつくるチカラ。」 [平成 27 年度]
- 提出資料- 4 入学者選抜試験要項 [平成27年度]
- 提出資料- 5 入学者選抜試験要項 [平成28年度]
- 提出資料- 7 八戸学院短期大学学則
- 提出資料- 8 ウェブページ「教育情報の公表」

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/jc/edu-inf/>

提出資料-15 時間割表 [平成27年度]

提出資料-16 教学Webシステム「シラバス」

ライフデザイン学科：

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/department/lifedesign/curriculum/>

【基準Ⅱ-Aの備付資料】

備付資料-12 各学科GPA一覧表

備付資料-13 各学科の資格取得状況表

備付資料-14 各学科の汎用的学習成果に関する資料

備付資料-16 就職先アンケート集計結果（事業所）

備付資料-17 卒業生アンケート集計結果

備付資料-19 入学前学習課題

備付資料-20 幼児保育学科 入学者特別講座

備付資料-31 各学科の実習指導、就職指導、学科指導に関する資料

備付資料-32 指定校一覧表

備付資料-33 「保育者養成懇談会」「合同企業研究会」「学内就職相談会」資料

備付資料-37 リメディアル教育関係資料

備付資料-38 看護学科 国家試験対策資料

備付資料-77 諸規程集

基準Ⅱ-B 学生支援

基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。

(a) 現状

各科目の成績評価は、科目担当者がそれぞれシラバスに示した評価方法で付与している。評価基準は学位授与の方針に定める専門的学習成果に対応しており、厳密に適用すると、履修年度に単位を修得できない学生が出ることも少なくない。1年次に必修科目の単位を修得できなかった学生を引き続き資格取得に向けて支援する場合は、2年次になるべく再履修できるように時間割を作成している。（提出資料-15, 16）

在学中の学習成果の状況を把握するための指標として、平成26年度より全学科でGPAを導入し、27年度はどの学科でも学期ごとにGPAを利用して成績指導を行った。どの学科でも教員間で情報を共有し、状況が思わしくない学生に対してはゼミナール担当教員が中心となって指導・支援している。幼児保育学科では以前から実習を行うためのGPA基準を設け、学期ごとに全学生のGPA値を算出しており、基準に達しない恐れのある学生はすべての授業で最前列に着席させ、教員が積極的に声をかけることで、学習環境の改善を図っている。（備付資料-12）

教員は前期・後期を通じて、1科目以上の授業評価を受けている。全学科共通のアンケート用紙を使用し、授業回数が14～15回目の時点で実施する。アンケートの回答に際しては、信頼性の高い結果を得るために学籍番号の記入を求め、結果が明確になるように、回答方法に「どちらでもない」を含まない4件法を採用している。教員の介入を防ぐため、学生がアンケートの回収を行い、事務局に提出する。アンケートの集計結果は各教員へ返却され、教員はそれに対して改善策を検討し、回答を提出する。回答は集計結果とともに冊子にまとめられ、図書館で閲覧可能である。（備付資料-27）

授業担当者間での意思疎通はすべての科目間で図られているわけではないが、関連の深い科目の間では授業内容の調整を図ったり、協力して合同授業を行ったりするような試みが行われている。特に実習指導の科目に関しては、過度の重複および遺漏が無いように、担当者間で打ち合わせを密に行っている。幼児保育学科では平成27年度より、それまで別々に実施していた1年次の保育所実習と施設実習を同時期にシフトを組んで実施することになり、それに伴って実習指導も協力して行う部分が増加した。（備付資料-31）

FD活動については、八戸学院大学と合同の委員会が組織され、授業・教育方法の改善に向けた取り組みが行われている。平成27年度は6月および11月に各3週間にわたって公開授業を実施し、すべての教員が授業を公開した。授業を参観した教員は「教員相互の授業評価アンケート」を提出し、その結果は授業担当教員にフィードバックされ、授業改善に役立てられている。また、FD研修会として外部講師を招いて「グローバル化社会の大学への期待—学生が大学で学ぶべき基本的スキル—」というテーマの講演を開催した。これにより、各教員の今後の授業運営や教育方法を改善するための実際的で有益な示唆が得られたと考えている。

（備付資料-29）

教員は、学科ごとに学生のGPAおよび単位修得状況、資格取得状況、就職状況のデータを共有し、学科の教育目的・目標の達成状況を把握している。また、ゼミナール担当教員は学習上の悩みの受け皿になるだけでなく、履修状況の点検、欠席が増えたり資格取得が困難になったりした場合の本人および保護者への対応、就職の相談や履歴書の指導等を担っており、卒業までのきめ細かい指導に当たっている。

事務職員は担当部署の各委員会に所属し、主として分掌責任者である教員との連携を密に行って職務に当たっている。また、それぞれの部署が関連する学習成果（成績、資格取得、就職など）を認識するとともに、成果の獲得に貢献している。さらに、各学科の教育の特色を理解し、教員との情報共有を図りながら、教育目的・目標の達成状況を把握している。

すべての事務職員は、毎年実施される法人全体のSD研修会に参加し、学生支援のための資質向上および専門性を高めるように努めている。特に、教務担当部署においては各学科の教育課程の特色を十分に把握し、教務担当教員と連携を取りながら、学生の履修登録から卒業判定までを支援している。（備付資料-30）

図書館は、1年次の学科毎のオリエンテーションにおいて、利用案内と文献検索方法についての基礎的な説明を行い、開館中は館内で職員によるレファレンスサービスが常時提供されている。

購入図書を選定に当たっては、教員ならびに広く学生および事務職員からも「推薦図書」として随時リクエストを受け付けている。それを1ヶ月毎に取りまとめ、図書委員会に諮って購入する手続きとなっている。その他に「指定図書制度」として、各教員が担当するカリキュラムの教科書以外の図書の備付をリクエストする制度があり、上記と同様の手続きで運用されている。他方で、各種検定や資格取得に係わる賞味期限が概ね1年以下の資料やテキストは購入を極力抑制し、相当分の予算を他の図書館サービスや本来の図書資料の充実に向けるようにしている。（備付資料-58）

図書館の開館時間は、平日8:50から19:00、金曜日に限り20:00までであるが、学生からの要望があれば、職員の都合がつく限り、開館時間を延長するサービスも実施している。総じて図書館は、図書館運営に学生も参加させながら、主たる利用者である学生にとって「居心地のよい空間」「利用価値のある空間」たるべく様々な施策をとり続けており、幾つかの課題はありつつも、年間延べ利用者数4万5千人の水準を維持している。（備付資料-34）

幼児保育学科校舎内の図書館分室については、平成27年度をもって閉鎖された。幼児保育学科学生による図書と図書館の利用を促進するため、分室にあった絵本等のライブラリーを本館に移動し、専用のコーナーを設けた。

学生のコンピュータ利用のために、全学生にIDとパスワードを配布し、学内LANを活用して教学Webシステムを活用できるようにしており、平成27年度にはスマートフォンやタブレット端末での無線LAN接続の利用もできるようになった。学生は履修登録や奨学金申請手続き、一部の科目ではレポート提出等をウェブ上でやっている。その他、インターネットを利用しての調べ作業は多くの目的で行われており、そのための環境として、コンピュータ実習室の他に、ライフデザイン学科と看護学科の学生は主に図書館2階に備えられたパソコン（20台）を、幼児保育学科の学生は短大2号館に備えたパソコン（8台）を利用している。（備付資料-35）

学生のコンピュータ利用技術については、学科によって違いがある。ライフデザイン学科では、コンピュータ関連資格取得に絡めて多くの科目を教育課程上配置しており、幼児保育学科と看護学科では、各分野で必要とされる情報のリテラシー教育を行っている。

教職員は平成26年度に更新された教学Webシステムにより、学生の履修状況や成績、学籍情報などを適宜閲覧し、学生の指導・支援に活用している。また、授業支援ツールとして、シラバスの入力と公開、授業の課題提示と提出、資料提供、アンケートの実施、履修学生への連絡等の利用が可能である。従来はシラバスに関しては全教員がこのシステムを使用するも

の、その他の授業支援ツールの利用は情報系教員が主であった。しかし、FD委員会によるシステム利用研修が実施されたことにより、実習後の自己評価シートやレポートをウェブ上で提出させるなど、情報系以外の教員の間でも利用が徐々に広がっている。このことは、平成27年度にFD委員会が実施したシステムの利用状況に関するアンケート調査によって確認された。（備付資料-29）

学校運営に関しては、学内業務に関する連絡事項や教授会資料はメーリングリストで周知され、自宅やモバイル端末でも利用できるようになってきている。また、教務など一部の委員会および幼児保育学科は専用のフォルダを有し、常時データを共有することで仕事の効率化を図っている。

(b) 課題

図書館は学生の学習向上と学校生活の充実のためにさまざまなサービスを行っているが、専従職員が少ないために難しい課題も抱えている。例えば、学生をはじめとする多くの利用者から切望されている週末日の開館については、青森県内の高等教育機関の附属図書館で実施していないのは本学だけであるものの、現在のところ実現の見通しが立っておらず、冷房設備の導入とともに今後の大きな課題である。

学生のコンピュータ利用に関して、コンピュータ実習室が授業以外の時間帯は施錠されており、レポート作成その他で使いたい学生は、教務学生課から鍵を借りて開錠し、使用後に鍵を返却するシステムになっていることが学生に不便を感じさせている。そのため、図書館2階や短大2号館に自由に使えるパソコンが備えられているが、台数が少ないため、混み合うときは使えない学生が出ている。施設・設備管理上の問題があるとはいえ、利便性向上のための方策が必要である。

教員による教学Webシステムの利用促進のために、FD委員会主催のシステム利用研修会を2回実施したが、全教員に対し実施したアンケート結果では、教員のシステム利用はまだ活発とはいえない。現在全教員が利用しているのは、シラバス入力と学生情報閲覧に留まっている。授業での活用は徐々に広がっているが、今後さらに利用技術の具体的利用方法や利点などの周知・促進を図る必要がある。

基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。

(a) 現状

入学時にはまず、「学修の手引き」・時間割・学事暦等を用いて全学オリエンテーションを実施し、その後、学科別のオリエンテーションを行っている。科目選択については、履修登録（各学科で学年ごとに実施）の時間にカリキュラムについて説明し、教学Webシステムでシラバスを確認するよう促している。ライフデザイン学科では目指す資格が多様であるため、宿泊研修時に各コース、プログラムごとの履修モデル、資格取得内容一覧を配布し、学生の目標に合わせた履修ができるよう指導している。また、どの学科でもゼミナール担当教員が学生の履修登録状況を点検し、科目の選択について助言を行っている。（提出資料-1、備付資料-21）

リメディアル教育の取り組みとして入学前教育を行い、全合格者を対象として、幼児保育学科とライフデザイン学科では国語、看護学科では国語と生物の学習課題を課している。課題は入学後に提出させ、国語については「国語表現」など関連科目の担当者がその結果を授業に反映させている。平成28年度入試では国語の学習課題の作成者を「国語表現」の担当者に変更し、より授業と関連づけるように内容の見直しを行った。幼児保育学科では音楽教育を重視していることから、系列高校からの入学者を対象にピアノレッスンの入学前特別講座も実施している。また、新入生全員を対象として「一般常識調査」を実施している。これは基礎学力テストに当たるもので、入学後の早い時点で学生の学力を大まかに把握し、学習支援に活用するために行っている。平成27年度はリメディアル担当者が問題の見直しを行った。

（備付資料-19, 20, 36, 37）

リメディアル教育として、幼児保育学科では「国語表現」と関連づけて、実習指導の一環として「国語力テスト」の時間を設けており、平成27年度は1年生対象に7回、2年生対象に6回実施した。これには漢字テストだけでなく、書写や作文も含まれている。ライフデザイン学科では平成26年度より「キャリアプランニング」を教育課程に組み入れた。この科目はリメディアル教育を目的とするものではないが、「数量的スキル」「論理的思考力」「日本語文章能力」「社会常識」の向上を目指してSPI能力検査を取り入れていることから、実質的にはその役割も果たしている。どちらの学科でも基礎学力の違いに関係なく、全学生を対象に実施しているのが特徴である。これは、基礎学力の低い学生が多いという本学の事情に合わせた所以である。（提出資料-16、備付資料-37）

看護学科については、入学後に生物の試験を行い、基礎知識が一定水準に達しない学生を対象として、時間割に「リメディアル生物学」を組み込んでいる。また、数学に関するリメディアル教育として、夏期休業中に臨床看護で必要とされる数学的課題を課し、夏期休業前後にテストを行った。さらに、看護師国家試験対策として、全学年を対象にその学年に応じた補習授業や模擬試験を実施している。これは全体的な学力向上にも寄与するものである。

（提出資料-16、備付資料-38）

どの学科でも個々の学生の支援はゼミナール担当教員が中心となっており、学習上の悩みにも対応している。学生の学習状況を把握するために、平成26年度より全学科でGPAを導入し、27年度はどの学科でも学期ごとにGPAを利用して成績指導を行った。GPAの推移を見ながら学生と面談を行い、学習方法の振り返りや今後の目標設定を行っている。

学生の進度に合わせた学習支援としては、幼児保育学科では「ピアノレッスン」が代表的

であり、25人クラスを複数教員によってさらに小さなグループに分けて、技能に応じたきめ細かい指導を行っている。ピアノの技能が培われた学生には、入学式や学位記授与式などの式典や学生祭において演奏を披露する機会を設けている。その他には「指導計画論」に複数教員を配置することで、「書く力」に応じたグループ編成での授業を行っている。また、幼児保育学科の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」については、教養科目であるために「専門外」という認識が強いことと、高校までの学習で英語に苦手意識をもつ学生が多いことから、一般に学習意欲が低い傾向にある。この問題を改善し、英語学習の動機づけとなるように、平成25年度から保育英語検定を導入し、検定日の1か月前より90分×5コマの対策講座を行った。平成26年度1名が2級合格、4名が3級合格という結果であったが、27年度は希望者が検定会場となる条件（10名）に達しなかったため、実施できなかった。（提出資料-16）

ライフデザイン学科では各科目の履修者が少ないため、どの科目でも個々の学生に目が行き届きやすく、学生の進捗や理解度に合わせた目標設定を個別に行い、達成できるように配慮している。学生が自分で将来の目的意識を持てるように、「生涯学習論」ではNIEを一部導入し、新聞から地域の情報や社会情勢を知り、各自で考え、将来に結びつくよう工夫されている。また、資格取得に向かう学生のために、多目的指導や課外の時間の対策講座、長期休業中の資格取得講座を開設し、ITパスポート、日商PC検定、メディカルクラークなど多くの資格について、学生が継続して学習し、資格取得ができるようサポートしている。（備付資料-39）

留学生の受け入れに関しては、平成21年度に「八戸大学・八戸短期大学外国人留学生規程（諸規程集）」、平成23年度に「八戸大学・八戸短期大学外国人留学生日本語研修コース規程（諸規程集）」を整備した。（備付資料-77）

留学生の受入に関しては、平成27年度はタイ国ファー・イースタン大学より1名の日本語研修生の希望があったが、支援体制と専従人員不足により受け入れを断念した。

また留学生の派遣に関しては、国際交流支援委員会が八戸学院大学と合同で、アメリカ合衆国とタイ国での短期研修を行なっている。

アメリカ海外研修は、夏休み中の8月末～9月上旬の約2週間、ワシントン州ハイランド・コミュニティ・カレッジのKaplan研修センターでの語学研修やホームステイ、カリフォルニア州の観光、現地学生・各国留学生との交流を中心とした内容の研修を実施している。平成27年度は、ライフデザイン学科1名が参加し、大学のアメリカ人教員1名が引率した。

タイ国での海外研修は、2月下旬～3月上旬の12日間、タイ北部チェンマイ市で、博物館や寺の見学、タイ式マッサージ、料理体験等タイの歴史や文化を学ぶプログラムに加え、八戸市出身の在住日本人経営者による研修、短期日本語研修生を本学で受け入れているファー・イースタン大学日本語学科の学生達との交流を行っている。平成27年度は、ライフデザイン学科1名と大学生2名が参加し、大学のアメリカ人教員1名が引率した。（備付資料-28）

(b) 課題

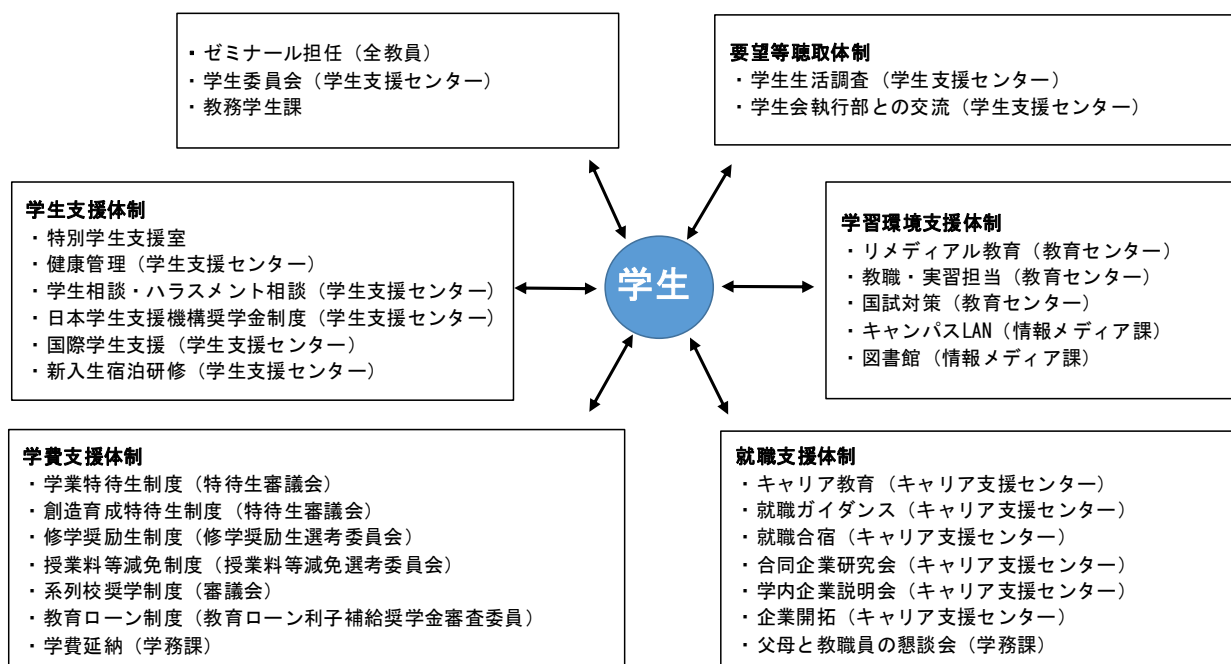
各学科が共通して抱える課題は、学力の低い学生に対する支援である。そのために実施している入学前課題については、基準Ⅱ-A-3でも述べたとおり、内容や量について今後も精査していく。入学時に行う「一般常識調査」についても、平成27年度に問題の見直しを行ったが、さらに内容や活用方法を吟味する必要がある。入学後のリメディアル教育については各

学科の特性に合わせてそれぞれ工夫をしているが、効果を検証し、さらに充実させていきたい。

基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。

(a) 現状

本学では学生支援に関する方針を明確に定め、各組織がそれぞれの支援体制を整備している。学生支援センター（学生委員会、学生相談・ハラスメント委員会、国際交流支援委員会）、教務学生課が中心となって組織的に支援を行っているほか、学生が所属するゼミナール担任があらゆる相談の窓口として機能している。4月には学生生活全般に関するオリエンテーションを実施し、学生が学習に専念し安全で快適な学生生活を送ることができるよう支援している。本学の学生生活支援体制は次の組織図のとおりである。



図Ⅱ-B-1 学生生活支援体制

学生支援センターは、学生に対して入学から卒業まで一貫した日常かつ専門的な学生支援を行うことを目的として、以下の業務を行っている。（備付資料-77）

- (1) 学生の厚生補導体制のあり方および学生生活の充実、相談指導のための方策についての企画・調整に関すること（学生委員会、学生相談・ハラスメント相談担当）
- (2) 学生指導に係る研修会・講習会、調査・研究等に関すること（学生委員会、国際交流支援委員会、学生相談・ハラスメント相談担当）
- (3) 学生の国際交流に関すること（国際交流支援委員会）
- (4) 学生のハラスメントの防止に関すること（学生相談・ハラスメント相談担当）
- (5) 学生生活に係る支援全般に関すること（学生委員会）
- (6) その他、学生支援センターに関すること（学生委員会、国際交流支援委員会、学生相談・ハラスメント相談担当）

また、学生生活を支援するために保健室、学生相談室、特別学生支援室を設置し、多様な

特性を持つ学生に応じた指導体制を構築し、支援している。特別学生支援室は障がいを持つ学生の学習を支援するために、平成25年度、八戸学院大学学長と本学学長直轄の組織として設置された。保護者および教職員との連携を図り、障がいの状況に応じて学習支援を行っている。（備付資料-77）

学生が主体的に参画する活動として、学生の自治組織である学生会があり、その傘下に、平成27年度は12の公認団体（サークル11団体、同好会1団体）が組織された。学生会執行部はサークル・同好会を統括するほか、新入生宿泊研修、学生総会、スポーツ祭、学生祭、卒業生送別会などを企画し運営している。執行部の学生はこれらの場面でリーダーシップを発揮し、健全で規律ある学生生活の発展に大きく寄与している。学生会活動や課外活動に関する業務は多岐にわたるが、学生委員会と教務学生課の教職員が時間と労を惜しまず、日常的に指導助言を行っている。（備付資料-40）

キャンパス・アメニティとして、本学幼児保育学科棟2号館学生ホールには冷暖房を備え、自動販売機、コピー機、ピアノ、卓球台などが設置されており、主に幼児保育学科学生の憩いの場として利用されている。また、学生ホールは空き時間のピアノの練習や学習の場ともなっている。ライフデザイン学科と看護学科は、八戸学院大学会館（5号館）内にある大学と共用のホール（食堂ならびに売店が設置）を主に利用しており、その他に八戸学院大学2号館にある学生ホール（「みほの茶屋」）と図書館前に冬季を除いて設置されるオープンテラスも気軽に利用している。（基礎資料 キャンパス配置図、施設図面を参照）

宿舎については、下宿紹介登録基準を定め、登録基準を満たしている近隣の下宿を学生に紹介している。

通学のための便宜として、公共交通機関を利用した通学が困難な青森県南、岩手県北からの通学者に対して、スクールバスを14路線運行している。このスクールバスは、学外で行われる行事等の際にも利用することができる。また、キャンパス内に学生専用駐車場、駐輪場を設置しており、学内で年2回実施される交通安全講習会を受講した学生に対して利用許可証を発行している。

学生に対する経済的支援としては、本学独自の奨学金、日本学生支援機構の奨学金制度、地方公共団体、民間団体の奨学金を案内している。平成23年に発生した東日本大震災で被災した学生に対しては、被災状況に応じた学費の減免を実施し継続的に支援を行っている。

本学独自の制度は次のとおりである。（備付資料-77）

（1）特待生奨学制度

健康にして学業成績、人物ともに優秀な学生（学業特待生）、または教育目的にかなう資格取得、スポーツ、文化、社会貢献および地域貢献活動の各分野において顕著な実績を有する学生（創造育成特待生）のために、奨学金の給付あるいは学納金の全部または一部の納付を減額または免除する制度。

（2）修学援助制度

①健康にして学業成績、人物ともに良好で、かつ経済的理由により学業の継続が困難であると認められる学生（修学奨励生）のために、奨学金の給付あるいは受験料および学納金の全部または一部の納付を減免する制度。

②職業を有し、学則第4条に規定する修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課

程を履修する学生（社会人長期履修学生）のために入学金および教育費の納付を免除する制度。

③学費の納入を目的に銀行等の教育ローン等を利用する学生（教育ローン等利用学生）のためにローン等の利子の全額または一部を補給する制度。

(3) 法人内進学生学納金等減免制度

本法人が設置する学校から本学に入学を希望する学生、および在学する学生の受験料および学納金の全部または一部の納付を減免する制度。

(4) 教職員子女学納金減免制度

本法人に勤務する専任の教職員の扶養する子女が本学に入学する場合において、奨学金の給付あるいは学納金の全部または一部の納付を減免する制度。

(5) 外国人留学生学納金等減免制度

本学に入学を希望する外国人（短期および長期留学を含む）のため、受験料および学納金の全部または一部の納付を減免する制度。

健康管理体制として、ライフデザイン学科と看護学科は専門職員が常駐する八戸学院大学内の保健室を利用している。平成27年度まで、幼児保育学科の学生が利用する講義棟の保健室には専任職員を確保できなかったが、平成28年度より1号館に新保健室を設置し、非常勤の専任職員が常駐する体制となった。平成27年度の利用件数は幼児保育学科31件、ライフデザイン学科30件、看護学科64件であった（なお、幼児保育学科の新保健室の平成28年4月の利用件数は12件と、前年同月の利用件数を大幅に上回った）。（備付資料-41）

健康管理のために、毎年4月に健康診断を行い、再検査の必要な学生に対しては保健室および教務学生課職員と連携して事後指導を実施している。メンタルヘルスやカウンセリング体制に関しては、学生支援センター内に学生相談担当、ハラスメント相談担当として相談員を指名し、学生相談を受ける体制を整備している。平成27年度の相談員は校医1名、大学教員5名、大学保健室専任職員1名、短大教員3名であり、前年度の7名から10名へと増員（平成28年度は短大保健室専任職員1名が追加）された。ハラスメント防止に関しては、学生にリーフレットを配布し、各種ハラスメントに関する意識の向上や相談窓口の明確化を図っている。

（備付資料-42）

さらに、教職員に対する学生相談・ハラスメント相談に関する研修の一環として、平成27年度は「学生の現状理解と学生相談体制の構築に向けて」というテーマで外部講師を招き、学生相談研修会が開催され、教職員62名が参加した。（備付資料-43）

学生生活に関する学生の意見・要望は、隔年で実施する学生生活調査（平成27年度は実施せず）や学生委員会と学生会執行部との間の情報交換によって把握している。平成26年10月に実施した学生生活調査で学生から多く寄せられた意見・要望では、学生食堂のメニューや弁当の種類を増やす、学食の値段が高い、近隣農業事業所から発生する悪臭対策を行う、教員に対する不満などが見られた。（備付資料-15）

留学生の学習支援については、平成26年度、タイ国ファー・イースタン大学より受け入れた日本語研修生2名の場合（27年度は、受け入れ態勢が整わず断念した）、国際交流支援担当教員が空き時間を利用して日本語レッスンを行うほか、地域の日本文化体験プログラムに引率し日本文化への理解を促した。更に週1回、NPO法人が開講する外国人のための日本語教室

でレッスンを受けさせ、日本語習得や他の在住外国人との交流を手助けした。また平日は、国際交流活動サークルおよび英語系ゼミナールに所属している学生が履修する科目を共に聴講させて彼らの補助を受けさせ、昼休みやサークル、学校行事においても、こうした学生を中心に補助した。

社会人学生については、平成27年度入試では幼児保育学科で1名、看護学科で9名が入学した。全員、入学前までに勤務先を退職し、通常の学生と同じ形で学んでいる。退職せずに、前述の修学援助制度によって長期履修生として支援する体制も整えているが、今までのところ利用実績はない。

障がい者への支援体制としては、平成25年度に八戸学院大学と一体で特別学生支援室を設立した。本学にも支援室担当教員がおり、発達障がいの学生については支援の体制が整えられている。施設整備については、ライフデザイン学科および看護学科の授業が行われる総合実習館（8号館）にはスロープ、エレベーター、障がい者用トイレ等を設置し、車いすの使用も可能である。幼児保育学科が使用する1号館は1階、2階とも外部から直接入れるようになっている。また、2号館の学生ホール内に段差があるため、平成27年にスロープを設置した。しかし、幼児保育学科の講義棟全体を見ると、バリアフリー仕様にはなっていない。

学生の社会的活動については、重点目標に地域貢献をかかげており、教職員が一体となって積極的に支援している。その活動は、地域において高く評価されている。学生が参加する大きな行事として、「八戸小唄流し踊り」「八戸健康まつり」「はちのへ子どもフェスタ」等がある。近隣地域から依頼のある学生対象のボランティアについては、学生委員会が掲示等で案内し、学生の積極的なボランティア活動を支援している。平成27年度、外部からの依頼数は44団体で、延べ331名の学生がボランティアとして参加した。この他にも、地域行事や健康調査などのイベントに毎年継続して参加しているサークルやゼミナールも多く、アンパマンの着ぐるみを使って福祉施設等でショーを行う「あすなる会」、地元ケーブルテレビ局で学生の目線から地域の紹介を行う番組を制作し出演している「8tan GIRLS」等がある。また、ゼミナール活動の一環として「幼稚園・保育所等での音楽コンサート」「おはなし・読み聞かせ会」「プレイパーク」「地域健康調査」「料理教室」等の活動も報告されている。さらに、ライフデザイン学科の行事として「ボランタリデー」が組まれており、平成27年度は学科全学生が「B-1グランプリ in 十和田」ボランティアスタッフとして参加した。（備付資料-44）

(b) 課題

メンタルヘルス等の体制として、平成26年度より学生支援センターに学生相談担当、ハラスメント相談担当が置かれているが、専門的な訓練・研修を重ねた専任の相談員が配されていない。日常的な相談はゼミナール担当教員を中心に受け付けているが、継続的に個別対応すべき「こころの問題」については、日常の人間関係から離れた場が提供されてこそ機能するので、利害関係のない専門相談員の配置が必要である。この点を改善するため、平成28年度は幼児保育学科の新保健室に看護師職員（相談は受付業務限定）を配置し、さらに、学外の精神科医をスーパーバイザーとして依頼している。

本学では、自動車・バイク通学を希望する学生に対して「自動車・バイク通学許可 駐車許可申請書」（バイクは通学許可申請書のみ）の提出を義務づけ、申請者に対して「通学許

可証」を発行している。学生委員会の教員が学生駐車場の巡回指導を定期的（2週間の巡回指導期間を年2回）に実施し、通学許可証を呈示していない車両にはペナルティーを科している。未登録車両は本学が加入している保険の適用外になるため、学生の安全のために厳しく指導しているが、車両の持ち主を特定できない場合も多い。また、ほとんどが軽微な事故ではあるが、毎学期自家用車通学者による事故の報告が上がっている。今後も通学のための車両登録や交通事故防止の呼び掛けを継続し、学生の安全運転と社会規範意識の向上を促していきたい。

平成27年12月の幼児保育学科講義・管理棟（1号館）竣工に伴い、保健室の整備がなされた。平成28年度より有資格の非常勤職員が常駐配置されたことで、学生の健康管理や登下校中の傷害、急病者発生時の対応に関する懸念が解消された。一方、新校舎の完成に伴い、平成28年4月より幼児保育学科棟（2号館）にあった食堂と図書館分室は閉鎖された。学生にはキャンパス内の230～250mほど離れたところにある食堂、図書館を利用するよう促している。利用を促進するため、平成28年度より昼休み時間を40分から60分に拡大した。これにより、短大の学科間だけでなく、八戸学院大学との交流も盛んになることが期待される。他方、昼休み時間の食堂の混雑や特に冬場の不便が危惧されるため、この点に関して、利用状況の調査や学生会執行部の意見聴取を行って対応を検討したい。（基礎資料 キャンパス配置図、施設図面を参照）

国際交流支援の課題として、学内の日本語研修体制が整っていないことと、各種手続きや生活支援全般で国際交流支援担当教員に大きな負担が掛かっていることがある。今後は担当教員と職員の役割分担を明確にした上で、連携を強化する必要がある。

基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。

(a) 現状

本学の就職支援のための組織は教員で構成される「就職支援委員会」と事務職員で構成される「キャリア支援課」がある。

平成27年度の就職支援委員会は3学科の専任教員7名（幼児保育学科3名、ライフデザイン学科2名、看護学科2名）で構成されている。就職支援委員は各学科の特性に合わせた進路支援のためのキャリア支援事業計画を立案し、ゼミナール担当教員をはじめとする全教員と学生の進路に関する情報を共有し、学生の就職を支援している。（備付資料-45）

「キャリア支援課」は就職支援委員と共に学生のキャリア支援事業計画の実施、資格取得を支援する講座の開催、求人票の収集等、就職に関する事務・指導を分掌している。

また、「キャリア支援センター」は広報委員会、入学試験運営委員会（以下、「入試委員会」）、就職支援委員会を統括する組織として設置されており、学生の入学から卒業までの一貫したキャリア支援を行う。（備付資料-77）

毎月八戸学院大学と合同で開催される就職支援委員会には、大学と本学の就職支援委員、キャリア支援課職員が出席し、大学・短大の学部・学科を通じて、キャリア支援事業に関する意見交換や就職状況の確認を行っている。特に、就職先が一般企業であるライフデザイン学科では、就職活動に関する情報の共有など、大学と合同開催であることのメリットが大きい。

幼児保育学科は幼稚園教諭と保育士の養成機関である。従来から「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」の両方を取得するよう指導しており、ほとんどの学生はそれを実現してきた。実習指導に重点をおき、すべての学生が両方の免許・資格を取得するべく、年間の実習指導計画を通して学生の職業に対する理解を深めている。特に、認定こども園法の改正によって定められた「幼保連携型認定こども園」の職員である「保育教諭」については、両方の免許・資格を有することが求められるため、その点を強調して指導している。また、最近幼児教育にサッカーを取り入れる施設が増えていることから、「体育実技」の授業を利用して日本サッカー協会公認キッズリーダー（U-6）の資格取得を勧めており、平成27年度の履修者の取得率は100%であった。その他、平成27年度は上級救命講習を2回実施し、57名の学生が受講した。（備付資料-13, 39）

ライフデザイン学科では、所定の単位を取得することで得られる資格「介護職員初任者研修」と、受験資格が得られる「レクリエーション・インストラクター」「福祉レクリエーションワーカー」がある。ライフデザイン学科では資格取得を支援する教育課程編成が組み立てられており、学生には「食生活アドバイザー」「フードコーディネーター」「観光英語検定」「国内旅行業務取扱管理者」「ITパスポート」「日商PC検定」「日商簿記検定」「日商販売士検定」「メディカルクラーク」「ネイリスト技能検定」「マイクロソフトオフィススペシャリスト」「Webデザイナー検定」「マルチメディア検定」等の資格取得を目指すよう指導している。またこの他にも夏期・春期休業中には大学と合同で学生の資格取得を支援する特別講座を開催し、積極的に参加するよう呼びかけている。その他、「フードアナリスト検定」「ビジネス文書検定」「サービス接客検定」「ビジネス実務マナー検定」「秘書検定」「硬筆書写検定」「八戸ふるさと検定」等、学生の希望や地域、企業のニーズに応じた検定も扱っており、学生が就職する際だけではなく、卒業後のライフデザインの可能性を広げる資格取得

を支援している。(備付資料-13, 39)

看護学科は「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」によるカリキュラムの実施により、看護師国家資格取得に必要なカリキュラムを編成し、専門職としての能力を養成している。平成27年度は看護師国家試験対策として、「国家試験対策授業」を各学年で年間を通じて実施した。具体的には、模擬試験を定期的に(計5回)実施し、各学生の成績を個別に分析し指導した。特に、看護師国家試験受験に関わる臨地実習前の準備教育に力点を置き、各学年の学事歴に合わせて対策講座を実施した。また、卒業生講話会や卒業生アンケート結果を通じて、卒業後の状況を把握し在学生へフィードバックできる機会を設けた。進路への悩みや不安の緩和、就職後の具体的なイメージ化ができ、日々の学習意欲の向上につながっている。(備付資料-17, 38)

各学科の進路状況は以下の通りである。(備付資料-26)

〈幼児保育学科〉

表Ⅱ-B-1 幼児保育学科の進路状況表 (各年度5月1日現在)

幼児保育学科	25年度	26年度	27年度
a 卒業生	98人	100人	91人
b 就職希望者	96人(98%)	97人(97%)	89人(98%)
うち就職者	96人(100%)	96人(99%)	89人(100%)
c 進学・留学希望者	0人(0%)	0人(0%)	1人(1%)
d その他	2人(2%)	3人(3%)	1人(1%)

就職希望者の割合は毎年90%台後半を維持しており、学生の就労意識の高さが窺える。平成27年度は、地域の多くの保育園がこども園に移行したためか、地域からの求人票の提出が早く内定が出るのも早かった。平成27年度の就職内定者中、就職先は保育所48%、こども園が33%、幼稚園8%、施設6%、一般職3%であった。近年首都圏の保育士不足を受け、関東地区から多数の求人があるが、平成27年度卒業生で幼稚園・保育所・施設に就職した学生は、青森県内での就職が79%を占め、関東地区は8%であった。その他、宮城県8%、岩手県3%であり、地域・地元への就職が大半を占めている(岩手県北部は本学のスクールバス通学圏であり、岩手県に就職した学生のほとんどは岩手県出身者である)。この結果には、本学の地域重視の姿勢が反映されているといえる。

〈ライフデザイン学科〉

表Ⅱ-B-2 ライフデザイン学科の進路状況表 (各年度5月1日現在)

ライフデザイン学科	25年度	26年度	27年度
a 卒業生	20人	28人	31人
b 就職希望者	17人(85%)	21人(75%)	26人(84%)
うち就職者	14人(82%)	19人(90%)	26人(100%)
c 進学・留学希望者	3人(15%)	1人(4%)	2人(6%)
d その他	0人(0%)	6人(21%)	3人(10%)

ライフデザイン学科は、学科に準備されている3コース6分野のカリキュラムから進路の方向性を見出し、それに適合した資格を取得し、主体的に職業を選択して就職先を決めようとする学科である。そのためか、学生の中には目指す方向をなかなか決められない者もあり、概して就職活動の出足が遅く、かつ長期化する傾向があった。27年度は過去の経験を踏まえて早くから活動できるように支援体制を整えた。方策の一つとして就職指導担当教員とキャリア支援課が密に情報を共有し、就職活動を行わない学生をなくすることに努めた。また実際に活動している学生でも不合格になった場合には、間を置かずに次の求人情報を紹介するというように学生の就職活動を支援した。

平成26年度卒業生については2名が卒業後も就職活動を継続していたが、例年同様全員が内定するまでキャリア支援課およびゼミナール担当教員が連携し、卒業した後も情報を共有しながら支援し続けた(その結果、1名が9月に就職し、もう1名は本人希望によりアルバイト継続になった)。

〈看護学科〉

表Ⅱ-B-3 看護学科の進路状況表 (各年度5月1日現在)

看護学科	25年度	26年度	27年度
a 卒業生数	70人	71名	81名
b 就職希望者	64人(91%)	69人(97%)	77人(95%)
うち就職者	64人(100%)	69人(100%)	77人(100%)
d 進学・留学希望者	6人(9%)	1人(1%)	4人(5%)
e その他	0人(0%)	1人(1%)	0人(0%)

看護学科の就職内定率は、平成26年度同様100%であった。

平成27年3月、卒業生と就職先の病院施設関係者を招いて就職説明会を実施した。ほとんどの参加施設が卒業生同伴であったため、学生は就職した先輩の「生の声」を聴くことができた。4月、各学年の就職支援ガイダンスを実施し、進路希望アンケートによる学生の動向を把握した。同時に1年次から継続する「面談シート」を用いて、ゼミナール担当教員が面談を実施し、学生生活全般に渡って把握し指導を行った。学科会議で情報を共有することで、全教員が個別的な支援を学生に提供し、就職活動の動機づけに繋がった。出身地に就職する地元就職内定者は50名であり、就職者数の65%を占め、26年度に増して地元志向が強かった。

幼児保育学科では平成27年度卒業生の八戸学院大学への編入学者は1名であった。進学を検討する学生は例年少数ながら存在するが、主に経済的事情により断念することが多い。ライフデザイン学科では単位互換制度を利用して八戸学院大学の講義を受講する学生が多く、編入を考える学生が毎年出ている。平成27年度卒業生では2名が八戸学院大学に編入学した。平成26年度にライフデザイン学科の講義室が大学に近い総合実習館（8号館）に、教員研究室が大学2号館に移転したこともあり、単位互換科目履修者が増加しているため、今後編入学者が増える可能性が考えられる。看護学科では卒業後のステップとして、助産師・保健師資格の取得のための進学や大学編入を勧めている。進学希望の意思のある学生には、教務担当教員やキャリア支援課が協力し、具体的な情報を早い時期に提供したことで、26年度1%から27年度5%に進学者が増加した。27年度の進学者はすべて編入学で、国立大学1名、県立保健大学3名の合計4名であった。就職希望者のなかには、経済的な事情により、進学は就職して自分で収入を得るようになってから再度考えたいという堅実な考えをもつ学生がみられた。

(b) 課題

幼児保育学科の平成27年度卒業生では、「保育士資格」のみを取得した学生が1名いた。新制度の「保育教諭」に必要な「幼稚園教諭免許」と「保育士資格」の両方を全員取得させるため、早期からの学習支援をさらに強化する必要がある。一方で、入学者の多様化に伴い、学力その他の面で保育者の資質に欠けると思われる学生も入学しているのが実状である。そうした学生に対しては、進路変更も視野に入れた指導を早くから行い、転科、他学科履修等によって、なるべく退学しないで有意義な学生生活を送れるよう指導している。平成27年度生では、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得を断念し、2年次にライフデザイン学科の科目を他学科履修し、「介護職員初任者研修」の資格を得た学生が1名いる。

ライフデザイン学科は平成26年4月に総合実習館（8号館）へ移転した。途中から環境が変わったライフデザイン学科2年生の就職活動に支障がないよう、キャリア支援課との連携を強化した。その結果、個別面談や書類作成の指導を受けるために、これまでは十分に活用されていない状況にあった大学会館内（5号館）のキャリア支援室を学生が訪問する回数が増加した。今後も今まで以上に学科と支援室との連携を強化していく。

長期休業中に開講している資格取得講座では、平成25年度から導入した上級救命講習の希望者が幼児保育学科で多数あったため、平成27年度は2回実施し、57名が受講した。学生の希望と社会のニーズに応じて、有用な講座の開催をさらに検討する。

看護学科では、臨地実習前の準備教育の強化および職業教育として臨床看護師を講師に迎えマナー・コミュニケーション講座、卒業生を迎えての卒業生講話会や交流会を実施した。また、具体的な就職先をイメージしながら小論文対策講座を実施した結果、公的機関への就職者数が増加した。これまでの支援体制の継続と、学生個々の社会人基礎力のさらなる向上を目指して講座の内容を検証、改善し、合格者の増大を図りたい。また、進学希望者については、進学先や社会資源に関するさらなる情報収集と提供を行い、進学率の向上を目指したい。

基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している。

(a) 現状

「入学者選抜試験要項」に、「建学の精神」「教育理念」「教育目標」「入学者受け入れの方針」を記載し、入学志願者に対する本学各学科の受け入れ方針を明示している。また、本学ホームページ上にも理念・目標・入学者受け入れの方針を掲載している。(提出資料-4,8)

受験生の問い合わせに関しては、キャリア支援課入試担当を中心に対応している。

広報は、事務職員ではキャリア支援課広報担当、教員では広報委員会が計画を立て、各学科の教員と連携をとりながら実行している。入試事務は、キャリア支援課入試担当と入試委員会が担当し、各部署と連携をとって運営にあたっており、学外への入試に関する情報提供・対応はキャリア支援課広報担当が行っている。

本学では、幼児保育学科で「推薦入試」「専門課程入試」「一般入試」「社会人入試」「大学入試センター試験利用」、ライフデザイン学科で「A0入試」「推薦入試」「社会人入試」「一般入試」「大学入試センター試験利用」、看護学科で「推薦入試」「社会人入試」「一般入試」「大学入試センター試験利用」と、学科ごとに多様な入試を実施している。ライフデザイン学科のA0入試は、学科の入学者受け入れの方針に沿った学生を求めて平成26年度入試より導入されたものであり、ホームページ上でも特にこの点が強調されている。この入試では、同時に特待制度のひとつであるS特待生選抜(高等学校在学中に取得した資格等が特待生条件に該当する場合、学費免除の特典を受けることができる)を実施している。

また、看護学科は八戸学院大学健康医療学部看護学科へ移行し、平成28年度入試から八戸学院大学における入学試験がスタートした。

入試事務が公正かつ正確に実施されるよう、入試運営委員長と入試事務責任者がすべての入試事務に深く関わっている。

入学試験の選抜は以下の手順で行っている。

- ① 出願期間を設け、願書を受け付ける。
- ② 出願資格等を確認し、受験票を郵送する。
- ③ 入学試験日に受験票を確認し、受験生を受け付ける。
- ④ 学科試験、実技試験(ピアノ)、小論文、面接のすべての試験において複数の教員で監督する。
- ⑤ 面接点は、あらかじめ決められた採点基準を基に、面接官である複数の教員が採点し、その合計点で示す。
- ⑥ 学科試験、小論文の採点は主に問題作成者が行い、その後、複数の教員が採点ミス等の確認をする。実技試験(ピアノ)は、複数の教員が採点を行う。
- ⑦ 試験結果の集計・確認を行い、入学者選抜委員会の資料を作成する。
- ⑧ 入学者選抜委員会による合否判定会議を開催し、合否を決定する。

推薦入試では学科ごとに評定平均値の推薦基準を設け、書類審査と、学習意欲や適性、将来性、人間性などを審査する面接試験を実施している。また、幼児保育学科と看護学科では学習全般の基礎となる国語力を審査する作文試験(小論文)を実施している。ライフデザイン学科では資格、スポーツ等の優れた実績を有する者を推薦条件に設定している。

一般入試の受験科目は、幼児保育学科とライフデザイン学科は国語であり、看護学科は国語と英語に加えて、選択科目として数学もしくは生物が含まれる。

幼児保育学科の専門課程入試は、保育・福祉系の科目の履修を条件としており、選抜方法には書類審査と面接、選択科目としてピアノまたは小論文を設定している。

大学入試センター試験成績利用入試の指定科目は、幼児保育学科とライフデザイン学科は国語、看護学科は国語、英語（筆記のみ）、さらに生物、化学、数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学Aから1科目選択である。ライフデザイン学科で導入されたA0入試では、出願書類とA0カードに基づいた面接で合否が決定される。また、S特待生選抜では、二次面接が実施される。

本学では入学後の学生生活が円滑に行なえるよう以下の資料を送付し、情報提供している。
(備付資料-18)

- ・入学式の案内
- ・入学後の各種オリエンテーションの案内
- ・海外研修の案内
- ・学費・諸経費の納入について
- ・入学事前確認用紙（入学式の出欠確認など）

入学者に対するオリエンテーションは、例年3学科合同で実施している。内容は学長講話、学院主講話、教務事項説明、学生生活に関する説明、情報モラル教育である。これらの内容の後で学科別に分かれ、それぞれの学科でオリエンテーションを行っている。(備付資料-21)

幼児保育学科では系列校入学者を対象に入学前の学習として「幼児保育学科特別講座」（音楽指導・ピアノレッスン）を実施している。(備付資料-20)

また、学科を越えた新入生相互の親睦ならびに教職員、リーダー学生(2年生)との交流と、学生生活および学習の方向付けをすることを目的として、毎年学外で「新入生宿泊研修」（1泊2日）を実施し、オリエンテーションの質的充実を図っている。(備付資料-22)

平成27年度の研修内容は、「出会いのワークショップ」「学歌研修」「学生会企画」「交通安全講習」「学科研修」であった。新入生へのアンケート結果によると、どの研修についても「満足」と「やや満足」を合わせて94.2%と高い数値を示した。毎年リーダー学生（学生会執行部役員を中心とした2年生）の活躍がめざましく、学生委員会の助言と支援の下、熱意と自主性、創意工夫を発揮している。アンケートによれば、リーダー学生の働きに対して73.8%が「満足」、24.6%が「やや満足」と回答しており、自由記述でもリーダー学生への感謝の言葉が多く寄せられた。彼らの活躍は新入生に大きな感動を与え、本学学生としての自覚と意欲を高め、学習への動機づけとなっている。

(b) 課題

入学者受け入れの方針は学外に向けて発信されており、入試事務体制は適切に機能している。また、入学者選抜は公正かつ正確に実施されているが、今後もより適切で客観的な選抜を行うため、調査書や資格の点数化について検討を続ける。ライフデザイン学科の入学定員充足率を上げるのも継続的な課題である。

入学直後に実施される新入生宿泊研修は、学生会執行部と一緒に、主に学生委員会が運営を担っており、学生の評価は高いが、開催時期や業務分担について検証する必要がある。

基準Ⅱ-B 学生支援の改善計画

多様な学生の受け入れに向けて、教員の授業改善の取り組みを今後も継続していく。

教員による教学Webシステムの利活用を促進するために、FD委員会主催のシステム利用研修会で具体的活用事例を示して、一部利用に止まっている教員の授業での活用を促す。

学力の低い学生に対する支援として、現在行っているリメディアル教育を検証して、より充実したものにしていかなければならない。少人数クラス編成によるきめ細かな学習指導実現の方策も継続して探っていく。単位修得が困難な学生に対しては、ゼミナール担任、教科担任が連携したこれまでの指導を強化し、一方で、どうしても資格取得が難しいと思われる学生に対しては、転科などの進路変更を視野に入れた指導を適切な時期に行うことで、退学者を減らす対策をとる。経済状況の悪化により学業の継続が困難になった学生に対しては、各種奨学金や本学独自の制度を整備して支援する。

学生相談に関しては、支援する教職員体制は備えているものの、専任の相談員の配置に向けて検討する必要がある。

留学生の学習及び生活支援に関して、国際交流支援委員会の担当教員と職員の役割分担を明確にして連携を強化し、支援体制を整えた上で受け入れを行う。

就職支援では、今後とも早い時期から就職の意識づけを図り、保護者との連携も継続して密に行っていかなければならない。

【基準Ⅱ-Bの提出資料】

提出資料- 1 学修の手引き

提出資料- 4 入学者選抜試験要項 [平成27年度]

提出資料- 8 ウェブページ「教育情報の公表」

<http://www.jc.hachinohe-u.ac.jp/jc/edu-info/>

提出資料-15 時間割表 [平成27年度]

提出資料-16 教学Webシステム「シラバス」

幼児保育学科：

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/department/yoho/curriculum/>

ライフデザイン学科：

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/department/lifedesign/curriculum/>

看護学科：

<http://jc.hachinohe-u.ac.jp/department/nurse/curriculum/>

【基準Ⅱ-Bの備付資料】

備付資料-12 各学科のGPA一覧表

備付資料-13 各学科の資格取得状況表

備付資料-15 学生生活満足度調査 [平成26年度]

備付資料-17 卒業生アンケート集計結果

備付資料-18 入学志願者への配布資料

備付資料-19 入学前学習課題

備付資料-20 幼児保育学科、入学前特別講座

- 備付資料-21 オリエンテーション配付資料
- 備付資料-22 新入生宿泊研修資料
- 備付資料-26 学校基本調査「卒業後の状況調査票」
- 備付資料-27 FD報告書「授業評価アンケート」
- 備付資料-28 海外研修案内資料
- 備付資料-29 FD報告書
- 備付資料-30 SD活動の記録
- 備付資料-31 各学科の実習指導、就職指導、学科指導に関する資料
- 備付資料-34 図書館利用者数
- 備付資料-35 教学Webシステムの利用説明（学生向け）
- 備付資料-36 一般常識調査
- 備付資料-37 リメディアル教育関係資料
- 備付資料-38 看護学科 国家試験対策資料
- 備付資料-39 夏期資格取得講座、春期資格取得講座資料
- 備付資料-40 学生総会資料
- 備付資料-41 学生報告集計
- 備付資料-42 学生相談室案内、ハラスメント相談案内
- 備付資料-43 学生相談研修会
- 備付資料-44 ボランティア集計表
- 備付資料-45 キャリア支援事業計画
- 備付資料-58 図書館利用案内、（別冊）文献検索資料
- 備付資料-77 諸規程集

基準Ⅱ 教育課程と学生支援の行動計画

教育課程の見直しは社会情勢や短期大学のあり方を見据えて行う必要がある。幼児保育学科については、専門学校や「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」との差別化を追求して、カリキュラムの見直しを進める。平成29年度に校名変更の計画があるため、カリキュラムの改訂は変更以降に実施する予定である。ライフデザイン学科については、入学定員を満たさない状況が継続しているため、法人全体の方針に沿って、改組の可能性も含めてカリキュラムの根本的な見直しを進める。

本学の三つの方針はすでに公表しているが、平成29年4月の公表義務化に向けて、28年度中に文言等の見直しを行う。

学力の低い学生に対する支援として、現在行っているリメディアル教育を検証して、より充実したものにしていく必要がある。リメディアル教育担当は委員会組織ではないが、今後教務委員会と連携し、短大全体で行う入学前課題・一般常識調査と学科ごとで行う活動を総合的に検討する。

入学後の学習成果の把握のために、平成27年度は全学科で学期ごとにGPAを算出し、成績指導を行った。今後、さらに有効な活用方法を学科ごとに検討する。

教育資源として、学生の図書館活用を促進するための環境整備を行う。特にこれまで分室を主に利用していた幼児保育学科学生が図書館に親しむよう、図書館職員と連携して工夫をしていきたい。また、物的資源として、平成27年度幼児保育学科の講義・管理棟（1号館）を竣工したが、旧校舎の整備も進めなければならない。今後はピアノレッスン室と美術室を2カ年計画で改修する。

学生の生活支援については、学生相談の体制が改善を要する。専任の常勤相談員を置いた学生相談室を設けることが望ましいが、早急に実現するのは困難であるため、外部のカウンセラーと連携して相談を受ける体制を作ることを実現したい。

◇基準Ⅱについての特記事項

(1) 以上の基準以外に教育課程と学生支援について努力している事項。

ボランティア活動や公開講座等に加え、多くのゼミナールが学生と地域との協働による活動を積極的に取り入れ、地域貢献に努めている。詳細は、選択的評価基準「地域貢献の取り組みについて」に記述した。

(2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現（達成）できない事項。

特になし。